

●第一回日本華人教授會議帰国訪問団のレポート●

秋晴れの北京へ飛び立つ

朱 炎



2006年9月3日から9日まで、日本華人教授會議は、設立後初めて代表団を組んで中国・北京を訪問した。

今回の訪問は、王毅大使のアレンジで、中国人民外交学会の招聘によって実現した。華人教授會議側の参加者は、朱建栄(団長)、趙軍(秘書長)、王智新、杜進、熊達雲、金堅敏、莫邦富、王柯、凌星光、張紀濤、スタント、沈潔、陳肇斌、巨東英、齊琳、朱炎(副秘書長)の計16人(一部は部分参加)である。

訪問期間中、北京大学、清華大学と2回のシンポジウムを共催し、中国社会科学院の日本留学経験のある学者と交流した。また、中国人民外交学会、中日友好協会、國務院僑務弁公室、外交部、中聯部などを表敬訪問し、清華大学国情研究中心、中央文献研究室、中国改革開放論壇などと意見交換を行い、宮本雄二・在中国日本大使とも懇談した。

各政府機関、団体や研究機関との懇談では、日中関係、日本と中国それぞれの内外政策などについて活発に意見交換し、訪問団側は日中間の意思疎通をなすべく意見を述べ、多くの提言も行った。各訪問先では、日本における華人教

授會議の活動と役割が高く評価され、引き続き日本と中国の橋渡しを務め、中国の国内外政策への意見と政策提言を期待された。

以下、今回の訪問におけるいくつかの活動内容を紹介する。

1. 北京大学とのシンポジウム共催

9月5日、日本華人教授會議と北京大学アジア・太平洋研究院の共催で、「中国人の日本観：在日華人学者との対話シンポジウム」が開催された。教授會議側の9人は日本の外交、日中政治関係、靖国参拝、日本の憲法修正、東海紛争、日中経済関係、日本民衆・マスコミの対中認識、日本の民族主義などの問題についてそれぞれ報告を行い、中国側学者はコメンテーターを務めた。率直な学術討論を通じて、互いに日中関係の現状と行方を把握するのに有益であったと感じた。

2. 清華大学国際問題研究所とのシンポジウム共催

9月8日午前、同研究所の閻学通所長、劉江永副所長ら十数人の学者、大学院生と「ポスト

小泉の日本政局と中日関係」と題するシンポジウムを共催した。討論内容は、安倍・次期首相候補と小泉現首相との異同、靖国参拝問題、日中経済関係、米日中関係など多岐に及んだ。

3. 中国社会科学院との懇談

9月6日、訪問団は中国社会科学院を訪問し、国際合作局及び各研究所の研究者(いずれも日本留学経験者)と懇談した。日中関係の現状以外、歴史研究、文化、戯曲交流、農産品貿易などについても意見交換が行われた。

4. 中国外交全般、対日外交に携わる大先輩から教示を受ける

9月5日と8日、それぞれ宋健・中日友好協会会長、鄭必堅・中国改革開放論壇理事長を訪問し、中国外交とりわけ政府の対日政策に影響力を有する二人の大先輩から、日中関係や中国の未来について大所高所に立つ話を聞くことができた。

宋健会長は以下の諸点を語った。①開放的な留学生政策の堅持。「海外で外国企業に勤めている元留学生も中国の立派な子である」。②社会の転換期にある中国は日本から学ぶべき点が多い。③中日間の関係緊密化にともなって矛盾と摩擦が生じるのは驚くべきではない。中国の基本的な対日政策は変わらない。④民間交流の促進が必要。⑤在日中国人学者からの意見と提言を歓迎する。(鄭必堅談話の要旨は28頁参照)。

5. 宮本大使との懇談

9月7日午前、日本大使館大使官邸を表敬訪問し、宮本雄二大使ご夫婦と会い、大使とは時間を大幅に延長して懇談した。

大使は日本華人教授会議の役割を高く評価し、「日中関係は現在冬にあるが、春にも遠くない」と指摘し、長年の対中交流の体験をふまえて「両国の国民感情の悪化を深く憂慮している。歴史的な経緯もあり、いったん悪化すれば、修復するのに数倍の時間と努力がかかる」と述べた。そして関係を改善するため、「5年計画」と称して、いくつかの分野での交流促進に取り

組む考えも披露し、中国人学者の協力を求めた。それに対して、訪問団側は日中の民間交流促進、誤解消去、信頼強化に関していくつかの提言をし、大使はそれを真剣に傾聴した。

6. 武大偉・外交部副部長との懇談

9月7日午後、訪問団は外交部を訪問し、武大偉・副部長と懇談した。武副部長は駐日大使の時代から華人教授会議と交流があり、柔らかい雰囲気的交流となったが、その談話要点は以下の通り。

①中国政府は対日関係において、「官民結合、相互促進」、「以民促官、以経促政、以文促情」の方針を継続させる。②日中関係は力均衡の変化に伴い、ある種の転換期にあり、双方の努力で摩擦を克服する必要がある。③中国はこれまで、「改造中国」に没頭したが、今後は「改造世界」の責任感をもたなければならない。「和諧社会」の構築は国内対策が中心だが、外部世界との信頼関係増進にかかっている。④中央外事工作会議は国際情勢の地殻変動に応じて外交政策を大調整する必要性を認識し、権利と義務の両方を配慮した責任ある外交を展開していく方針を定めた。⑤華人教授会議が中国国内社会および外交の発展のために進言することを期待する。

7. 党中央対外聯絡部での懇談

9月8日午後、代表団は中国共産党中央対外聯絡部を表敬訪問し、張志軍副部長、李軍局長らと懇談した。張副部長は、中聯部の役割、日本各政党との交流を紹介し、中日関係において、当面は靖国問題の対処に知恵を要すると述べ、中長期的には中国の核心利益に関わる台湾問題の対応が重要だと指摘した。ほかに、日本の外交政策動向、北朝鮮の核問題、対日交流の改善すべきところなどをめぐって意見交換した。

8. 中国人民外交学会との協力関係の樹立

楊文昌会長、王珍副会長との協議を通じて、今後、日本華人教授会議の毎年の中国訪問を受け入れ、交流・提携を拡大していくことについて合意した。(富士通総研主席研究員)